

IT 啓発・教育プログラム構想 EMA 試案

2008年4月30日

IT啓発・教育推進活動の目的

青少年のIT啓発・教育推進

青少年がIT啓発・教育推進活動において健全なITの利用法を身につけ、適切な対応ができる能力を養う。

保護者の苦手意識(デジタルデバイド)の解消

ITに苦手意識をもつために起こる青少年のIT利用への保護者の無関心の解消とITへの理解の促進。

青少年のIT啓発・教育推進にかかわる学校等へのフォローアップ

教職員をはじめとする青少年にかかわるすべての人々が正しく青少年のIT啓発・教育を促進することができるようにデジタルデバイドの克服を支援。

インターネット・携帯電話を健全に利用するユビキタス社会の提唱

IT啓発・教育推進活動の成果により、ITの存在を前提とし、快適かつ健全にITを活用できるユビキタス社会を実現する。

IT啓発・教育推進活動での各者の主な役割

国・省庁

- 青少年のIT利用と啓発・教育におけるグランドデザインの策定
- IT啓発・教育にかかわる予算の策定と実行
- ITを活用した健全な社会の創生

事業者

- IT啓発・教育プログラムのサイトでの実施
- 携帯電話販売店などに対するIT啓発・教育活動の普及を指導
- 新技術・新しい機能による影響の把握と啓発・教育活動

EMA

- IT啓発・教育の啓蒙活動
- IT啓発・教育推進に必要なテキストの策定・認定活動
- ITの進歩、事故・事件の発生に伴うテキストの更新指導など

保護者

- 青少年にIT啓発・教育プログラムを受講させる
- 青少年とともに自己の啓発・教育に努め、共に学ぶ姿勢をもつ
- 青少年、および自己の啓発・教育受講状況を学校等に報告

学校

- 保護者に対し青少年のIT啓発・教育プログラムの受講を促す
- 教員自身の啓発・教育とリテラシーの獲得、特色ある情報教育の実施
- 青少年の受講状況の把握と達成率の向上に努める

地域行政

- 学校におけるIT啓発・教育推進のための支援
- 地域住民のIT相談窓口の設置と対応
- 地域・学校・保護者が協力してIT啓発・教育を行える環境の構築

EMAの活動

IT啓発・教育活動

- EMAは、認定サイト（コミュニティ）において、認定の条件として啓発・教育プログラムの提供を義務づけ、キャリアのメニューや販売店での啓発・教育活動の支援を行う。
- また、啓発・教育活動の意義と指導的内容を関連団体（学校・自治体・企業など）の担当者にセミナーなどを通じて啓発・教育活動を行う。家庭、学校、自治体などで啓発・教育活動に利用するためのプログラムの策定・認定を行ない、重大な事故・事件発生を受けて、適宜内容を更新する。
- プログラムを更新した場合は、速やかに関係団体や認定サイトへ周知して更新プログラムの反映を促す。

IT啓発・教育の啓蒙活動

- ・関連団体への啓蒙
- ・団体へのセミナー開催

啓発・教育テキストの認定

- ・児童・青少年向け
- ・保護者・地域向け
- ・教育機関・自治体向け

テキストの更新指導

- ・事故・事件発生に伴う変更
- ・法律などの改正に伴う変更
- ・社会的変化・制度理解に伴う変更
- ・その他の事由

プログラムの義務化と支援

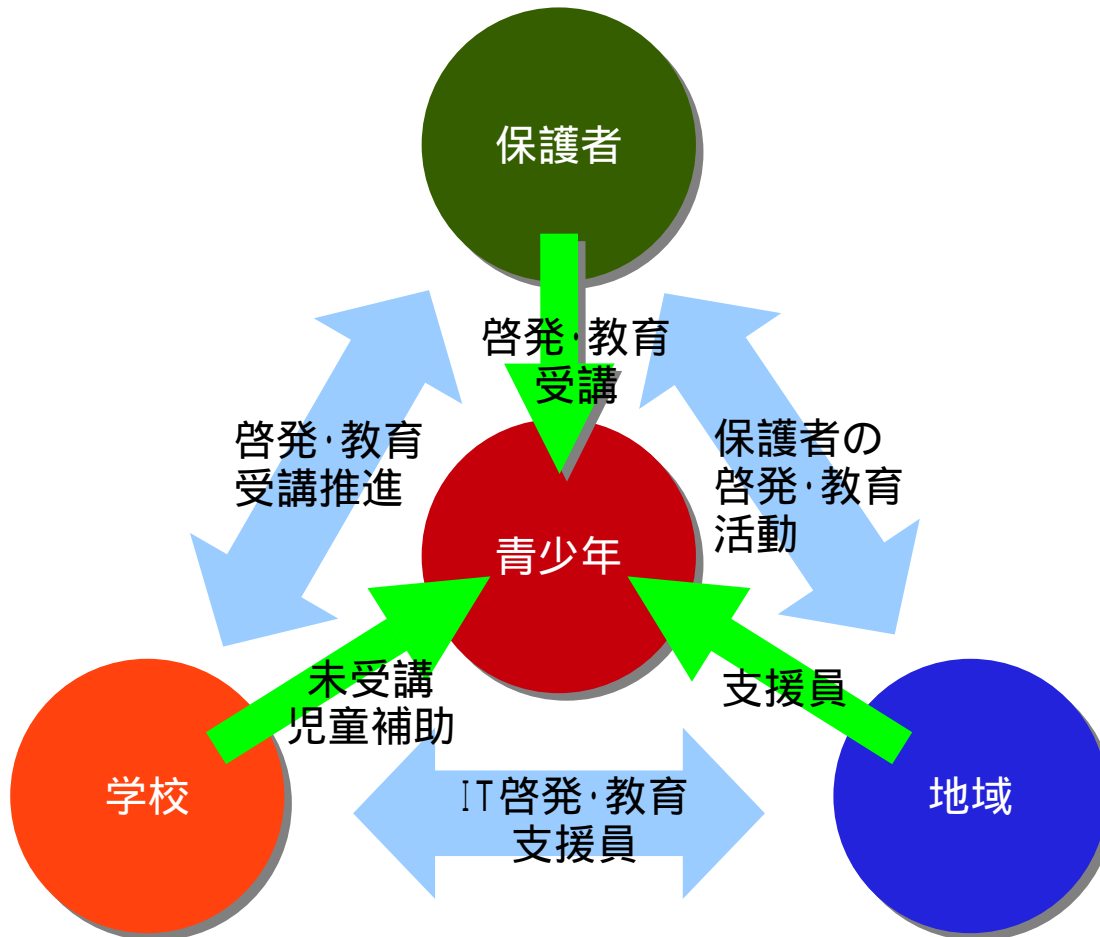
- ・認定サイト（コミュニティ）
- ・携帯キャリア
- ・放送局など他のメディア

事故・事件発生時の対応

- ・プログラム・テキストの変更検討
- ・関係機関への通知

保護者・学校・地域による連携

保護者・学校・地域の連携



保護者の役割

〔IT啓発・教育の主体者〕

保護者は、家庭内において必要なIT啓発・教育を児童・青少年に受講させ、学校などの関係機関に受講状況を報告を行う。児童・青少年が受講を拒む場合には、相談窓口などと協議の上対応を行う。

学校の役割

〔IT啓発・教育の指導〕

学校は、保護者に児童・青少年へのIT啓発・教育の実施を指導し、保護者からの相談に対応する。また、教育プログラムに変更・追加が生じた場合には、速やかに保護者に伝達をし、追加教育の実施を指導する。

地域の役割

〔IT啓発・教育の支援〕

地域は、家庭・学校のIT啓発・教育を支援する。保護者、学校から依頼がある場合には、学校内のIT啓発・教育を教員に代わり実施する。